



ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校 令和5年10月号

10月22日 国際吃音啓発の日

世界には数百万人（総人口の1%）いるとされる吃音や言語障害をもった人たちに対する理解啓発を目的として、1998年に国際吃音者連盟（ISA）と国際流暢性学会によって、10月22日が国際吃音啓発の日（International Stuttering Awareness Day）と制定されました。この日に合わせ日本を含め世界各地で、毎年様々な吃音啓発のための取り組みが行われます。社会には吃音に対する誤った理解が根強くあります。吃音についての正しく理解することができるチャンスがいろいろあるので、興味をもっていただけると嬉しいです。



緑色のリボンが
記念日のシンボル
マークです

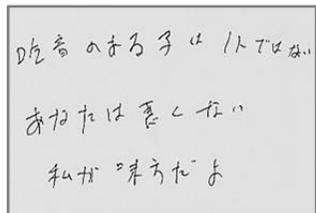


★うまく話せない生活

吃音は、目に見える吃音症状だけではなく、吃音のある人が抱える心理的なものが大きな問題になります。この2つは、周りの人には心の中が全く気付かれることなく過ぎてしまう場面だと思います。「日々こんな気持ちで過ごし、モヤモヤした思いがたまってしまう」ということが、イラストでとても分かりやすく表現されていると思います。

★吃音が悪いんじゃない

「周りの人達は普通に話せるのに自分ではできない」「すらすら話せない自分はダメだ」と思い、自己肯定感が下がってしまうことが多くあります。だから「私は（吃音が）悪いんじゃない」はとても大切なキーワードです。ことばの教室でも、繰り返し伝えるようにしています。



以前、吃音ドクターの菊池良和先生から、ことばの教室の通級児童に向けて書いていただいたメッセージです！



きつおんガール うまく話せないけど、仕事してます。 小乃おの（著） 合同出版

今月は、吃音で相談にいらした方に、私がよくお勧めしている本を紹介します。「なぜ吃音のある私が、コミュニケーション中心(!)の“社会福祉士”という仕事を選んだのか。吃音で悩んでいたときのこと、言葉がスムーズに出せない感覚、恩師の言葉、社会福祉士としての仕事……吃音と生きてきた私の物語」と書かれています。かわいいイラストのマンガで書かれているのでとても読みやすく、そして吃音のことが分かりやすく説明されています。吃音の当事者だけでなく、より多くの方々に読んでいただきたい本です。



★吃音で困ること

周りの人は「話しにくいだけ」と軽く考えてしまうのかもしれませんが、しかし「吃音で受診した中高校生の約4分の1が不登校を訴え、一因に社交不安障害が関係している」(九州大研究チーム)という結果が出ているほど、大きな悩みになるつながるものなのです。まずは、そのことを周りの人達が知る必要があると思います。



★話を聞いてくれる人

本の最後は『「ただ話を聞いてくれる人」が少しでも増えますように。こらえてたたくさんの言葉が残らず人に言えるようになりますように。』と締めくくられています。

🎃🍁🌸🌻🌼🌺🌻🌼🌺🎃

随時受け付けています！

白岡市教育委員会
0480-92-1111（代表）
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017（直通）

※イラストは、小乃おの「きつおんガール」、合同出版 2020年8月からの引用です。